

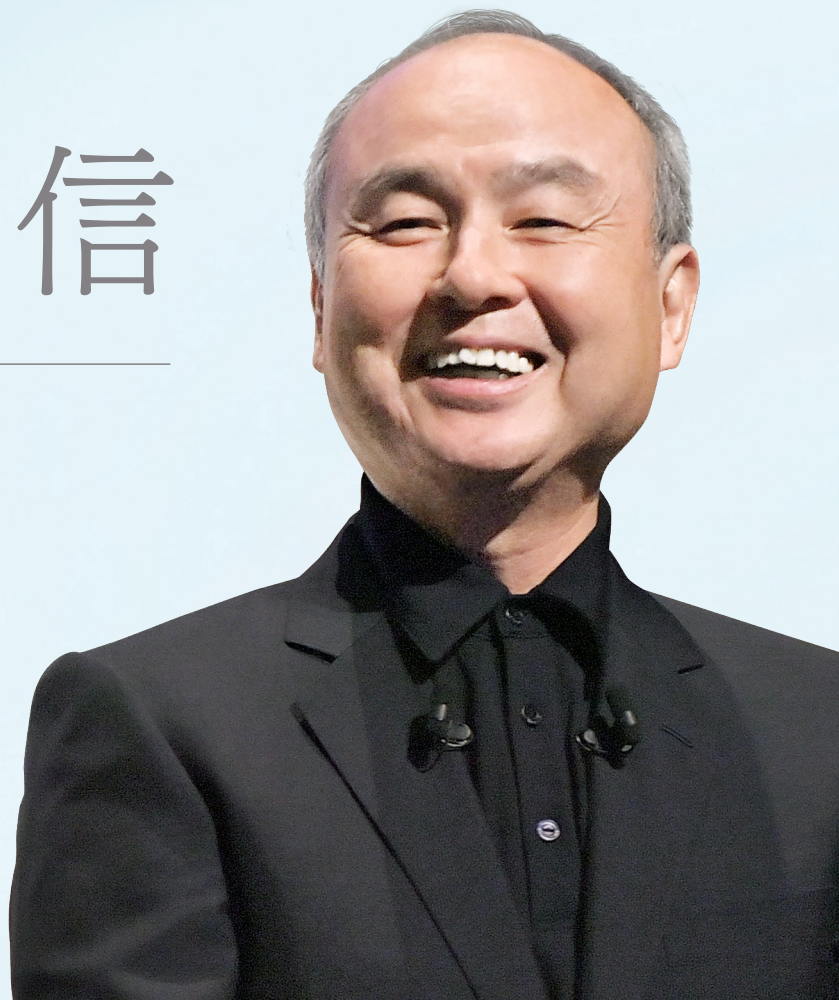
株主通信

2024年

ASIの実現に向け
グループの総力を挙げ
AIインフラを推進しています

 SoftBank
Group

ソフトバンクグループ株式会社 証券コード:9984



株主通信 2024年 目次

- 2 …… 株主の皆さまへ
- 3 …… 2024年度上期の事業概況
- 4 …… 特集①ASI実現に向けて
- 5 …… 特集②ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業
- 6 …… サステナビリティへの取り組み
- 7 …… ホークス、4年ぶりリーグ優勝！

株主の皆さまへ

当社は「情報革命で人々を幸せに」という創業以来変わらない経営理念の下、情報技術の発展によって社会やライフスタイルが変革する「情報革命」を牽引し、世界の人々が最も必要とするテクノロジーやサービスを提供する企業グループとなることを目指しています。

AIの進化が加速する中、私は10年以内には「ASI※1」が実現し、人類の叡智の一万倍の能力を持つ超知性の時代が訪れると確信しています。この超知性は、知能だけでなく、私たちが持つ感情や倫理観など、より深い知性を備えた存在として人類社会と調和を取りながら未来に革新をもたらすでしょう。

ASIの実現には、AIチップ、AIデータセンター、AIロボットなど高度なインフラが不可欠であり、当社はグループの総力を挙げてこれらを推進しています。その戦略の中心にるのが、昨年9月に上場したアームです。アームの技術は次世代のAIインフラを支える重要な基盤となり、ASI時代においても中核的な役割を果たすと信じています。

アームの成長と将来性が市場で評価されたことなどにより、当社の時価純資産(NAV※2)は、この1年で16兆円から29兆円へと拡大しました。しかし、これはASI実現に向けた道のりの始まりに過ぎません。さらなる成長に向けた戦略の進展にご期待ください。

ソフトバンクグループ株式会社
代表取締役 会長兼社長執行役員

孫 正義

※1 Artificial Super Intelligence (人工超知能) ※2 Net Asset Value



2024年度上期の事業概況

2 024年度上期の投資利益は2兆6,510億円となりました。主にアリババ株式とTモバイル株式の株価上昇により持株会社投資事業で2兆1,168億円の投資利益を計上したことによるものです。SVF^{※1}事業で5,998億円の投資利益^{※2}を計上したことも寄与しました。この結果、純利益^{※3}は前年同期から大幅に改善し1兆53億円となりました。なお、中間配当は前期と同額の1株当たり22円としました。また、2024年8月に決議した最大5,000億円の自己株式取得枠のうち、同年10月末までに累計1,748億円の自己株式を取得しました。

■ 連結業績

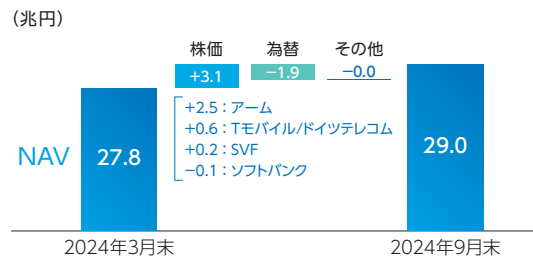
(億円)	2023年度 上期	2024年度 上期	増減額 (増減率)
売上高	32,271	34,699	+2,429 (+7.5%)
投資損益	△9,636	26,510	+36,146 (-)
税引前利益	△9,074	14,611	+23,686 (-)
純利益	△14,087	10,053	+24,140 (-)

当社説明会資料のページは[こちら](#)

NAV増減要因

主に当社保有株式の株価が上昇したことにより、この半年間でNAVは1.2兆円増加しました。アームに加え、TモバイルおよびドイツテレコムやSVFの投資先^{※4}などの株価が堅調に推移したことが、3.1兆円の増加要因となりました。一方、為替換算レートがこの半年間で約9円円高となったことは、1.9兆円の減少要因となりました。

NAV増減要因



※1 ソフトバンク・ビジョン・ファンド ※2 当社子会社への投資にかかる投資利益を含まない ※3 親会社の所有者に帰属する純利益 ※4 ソフトバンク・ビジョン・ファンド1およびファンド2、ラテンアメリカ・ファンドの合計

ASI実現に向けて

2 024年度上期は、ASIの実現に向けた高度なインフラ整備の一環として、AIや機械学習に特化したチップの設計・開発を手掛ける英国Graphcoreや、AIの進化に伴う電力需要増への対応を目指す再生可能エネルギープラットフォームの米国SBE Globalを子会社化しました。また、データセンター領域では、ソフトバンクが国内でのデータセンター構築に着手しており、ロボット分野では、物流業務の

最適化に向けたソリューション開発を当社グループの投資先と協業して進めています。



※ASI実現に向けた取り組みに関しては、当社の2024年度第1四半期決算プレゼンテーション資料(p22～38)を併せてご覧ください

アーム事業

2024年度上期の売上高は、上半期としてアーム史上最高の1,783百万米ドル^{*1}(2,738億円)となりました。顧客による活発なAI投資を背景にライセンス収入が好調となったほか、スマートフォン分野を中心にチップ当たりのロイヤルティ単価が高い最新世代テクノロジー「Armv9」の普及が進みました。データセンター分野においても主要なハイパースケイラー^{*2}がアームの技術を採用しています。同社はまた、スマートフォンやオートモーティブ、データセンター、PCなど重要視する市場でCSS^{*3}を投入しました。これにより、同社の顧客はより短い期間でより簡単にチップを設計し、市場投入までの時間を短縮することが可能になりました。

※アームの事業およびテクノロジーに関する詳細な情報は、[同社ウェブサイト](#)をご覧ください

新技術の開発・浸透

スマートフォンに加え、データセンター向けチップも
Armv9ベース



CSS：様々なターゲット市場向けに展開

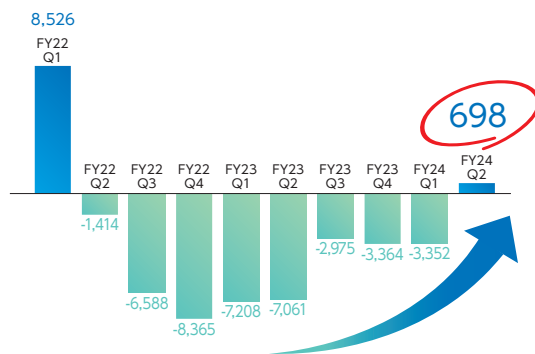


^{*1} 当社の要約中間連結損益計算書におけるセグメント情報のアーム事業に関する開示数値 ^{*2} 大規模クラウド事業者 ^{*3} コンピュートサブシステム:複数のIPライセンスを組み合わせた、動作確認済みのパッケージ

S VF^{※1}は、AIを活用した成長可能性の大きな企業へ投資しています。10年超のファンド存続期間を活かし、中長期的視点から投資成果を最大化することを目指しています。2024年度上期は、ByteDanceや Coupangなどの一部の投資先の公正価値が増加したことなどにより、4,050百万米ドル^{※2} (6,104億円)の投資利益を計上しました。これにより、活動開始来の累計投資損益^{※3}が約2年ぶりに黒字に転換しました。

SVF: 累計投資損益

(百万米ドル)



2 2024年度上期、乳幼児向け用品を取り扱うインド最大のオンラインショップを運営するFirstCryなどの投資先3社が新規上場し、活動開始来のSVFの投資先の株式公開実績は53件に達しました。また、AIモデルやAIサービスの開発・展開をするOpenAIや、生成AIを搭載した検索エンジンを提供するPerplexityなど、AI技術を開発・導入し業界をリードする企業に新たに投資をしました。

新規株式公開

firstcry.com

OLA ELECTRIC

XtalPi

SVF2 主な新規投資先

WIZ+



perplexity

AlphaSense

glean



poolside



OpenAI

※1 ソフトバンク・ビジョン・ファンド1およびファンド2、ラテンアメリカ・ファンドを含む
 ※2 当社の要約中間連結損益計算書におけるセグメント情報のSVF事業に関する
 開示数値 ※3 2017年度第1四半期からの累計計上額

〈サステナビリティへの取り組み〉

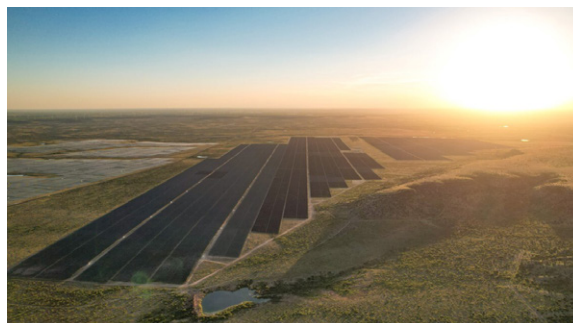
経営理念の実現を支える「責任あるAI」

最先端に立ちAI革命を推進する当社グループにとって、AIのリスクに対処しながら機会を捉え価値創造に繋げていく「責任あるAI」の取り組みは非常に重要です。

当社グループとAIの関わりは、AI事業への投資や事業展開、業務でのAIの活用など多岐にわたることから、最適なAIガバナンス体制の確立は容易ではありません。そのため、グループ会社および部門横断のAIガバナンスワーキンググループでの議論を通じて、AIの潜在的なリスクに対処しながら機会を捉えた、「情報革命で人々を幸せに」を実現するためのAIガバナンス体制の確立に向けて取り組んでいます。



AIの進化に伴う電力需要増加の問題が懸念されています。SB Energy Globalは環境負荷の低いグリーンエネルギーである太陽光発電事業を、主に米国で展開しています。今後はその他の再生可能エネルギーの事業展開も追求していきます。



また、ソフトバンク(株)が構築を進めるAIデータセンターでは再生可能エネルギーの活用を計画しています。北海道苫小牧のデータセンターでは、SBパワー(株)および北海道電力(株)から供給される再生可能エネルギーを100%利用する予定です。

当社のサステナビリティの詳細は[こちら](#)

ホークス、4年ぶりリーグ優勝！

ホークスは通算22回目(前身球団時代を含む、ソフトバンクホークスとして7回目)、4年ぶりとなるパシフィック・リーグ優勝を達成しました。熱きご声援をいただきありがとうございました。小久保 裕紀監督から株主の皆さまへのメッセージです。



小久保監督からのメッセージ



シーズン通しての温かいご声援に心から感謝申し上げます。4年ぶりのリーグ優勝という栄冠を掴むことができたのは、選手たちの懸命な努力と、スタッフの献身的なサポート、そして何よりも皆さまの熱い応援があったからです。皆さまの支えがあったからこそ、我々は困難を乗り越え、チーム一丸となって優勝という結果を手にすることができました。

ただ、その先の目標であった日本一は掴むことはできませんでした。この悔しさをバネに来年こそは、チーム全員で必ず日本一を掴み取りたいと思います。引き続きご支援いただければ幸いです。改めて、今年1年のご声援、心から感謝を申し上げます。

株主メモ

■ 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
■ 期末配当金受領株主確定日	3月31日
■ 中間配当金受領株主確定日	9月30日
■ 定時株主総会	毎年6月
■ 上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
■ 公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL : https://group.softbank/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します)

○住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

証券会社等に口座を
お持ちの株主さま …… 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

特別口座をお持ちの
株主さま …… 下記連絡先(三菱UFJ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

○未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(郵送先) 電話: **0120-232-711** (通話料無料)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 <受付時間> 土日祝日を除く平日 9:00 ~ 17:00

(注)旧株式会社アッカ・ネットワークス株式に係る特別口座管理機関へのお問い合わせ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 電話: 0120-782-031 (通話料無料) (受付時間 土日祝日を除く平日 9:00 ~ 17:00)

- 本誌に掲載されている会社名、社名および商品・サービス名などは、各社の登録商標または商標です。
- 本誌の一部あるいは全体について、当社の許可なく複製および転載することを禁じます。

免責事項 本誌に掲載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざま
なリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本誌に掲載されている当社および
当社グループ以外の企業などに関わる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません

ソフトバンクグループ株式会社

〒105-7537 東京都港区海岸1-7-1
電話: 03-6889-2000
<https://group.softbank/>

会社概要はこちらへ

2024年12月3日発行 Copyright © 2024 SoftBank Group Corp. All Rights Reserved. Printed in Japan